

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 97

2011年3月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



牛久里山の原風景をみる

里山自然観察隊の活動の場 里地、里山を想う！

里山自然観察隊

平塚芳雄

里山自然観察隊は市内城中町や牛久自然観察の森周辺を、主たる活動の場として植物の調査や植物観察会を行っています。この地はいわゆる里地・里山と言われる地域です。

里地・里山とは、身近な雑木林や社寺林、屋敷林そしてその周囲に広がる農地や河川など人の生活圏にあつて、人の手によって人が利用するために造られた、二次的自然のエリア全体を指すものといわれています。

「里山の自然は豊か」とあると言われますが、それは里山に人の手が入ることで環境が多様化し、それぞれに適応した生きものが生息できるようになるからだと考えられます。生物の多様性（生物がさまざまな種に分化し形態や遺伝的な特徴などが一様でないこと）がある地域であり、地面の上から土の中まで多くの生命が生活しています。

しかし、昭和三十年頃から始まった家庭用燃料の化石燃料化が進み、昭和五十年頃には里山で生産されていた薪・木炭はほぼ姿を消し、また化学肥料の普及、使役家畜の消滅等と相まって里山はその経済的価値を失ってしまいました。経済的価値を失った里山は昭和三十年代半ば以降次々と宅地化されて減少、残った里山の多くは十分な管理がなされず荒れた状態になっています。

里山で生活していた動植物も絶滅したり、それが懸念される状況です。

昨年二度、交通事故にあつたと思われるタヌキの死を見ました。一度目は自然観察の森近くの県道、二度目は刈谷の運動広場近くの裏道。又、一昨年、私の住んでいる住宅街の排水溝に瘦せ細ったタヌキの親子がいるのを確認しましたが今は所在不明です。家が立ち並び市街化した身近な場所にこのような野生の動物を目撃し、そこに里山の片鱗が残っていることに感動すると同時に絶滅寸前であることも強く感じました。

「持続可能な開発」という考え方があります。将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすこととする環境保全と長期的発展の両立を図る考えです。

この考えはうしく里山の会の目標（郷土の自然を子・孫の世代に引き継ぐ）につながり、観察隊の活動の方向性を示すものでもあると思っています。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト
活動報告



巨木リサーチ2事業報告

渡辺 泰

刊行物の編集を終えて

巨木リサーチ事業は市内の巨木等を調べ、成果を報告会・冊子等を通して市民に提供することを目的として、平成十八年四月から五年間活動してきました。この度、牛久市役所建設部緑化推進課の平成二十二年予算に巨木リサーチ事業の活動成果を刊行するための予算を計上していただき、それに合せ、平成二十二年四月に巨木編集委員会を立ち上げ、十カ月間鋭意取り組んできました。

最初の委員会で「牛久の巨樹」と「事業報告書」に分けて編集することにしました。前者は市民向け写真主体の巨樹ガイドブック、後者は活動成果の総括的報告書です。その概要を次に紹介します

一・牛久の巨樹

大きさはA五版、左右見開き二頁に掲載木を載せ、左頁に全頁大の写真、右頁上に計測データ・掲載木所在地等を枠で囲み、その下に 掲載木所在地案内文・測定結果、掲載木の個別的・一般的情報、掲載木生育場所の社寺等の由来他、下段に補足写真、所在地マップを挿入する構成です。

これに基づき、各委員が執筆等分担作業に着手。掲載写真の選定には時間を費やし、写真グループが平成十八〜二十年度に登録した多数のファイルから、全景写真をスクリーンへ映して選定、所要の追加撮影に努め、掲載写真を確定しました。

掲載頁は牛久・岡田・奥野の三地区に分け、牛久地区は「正源寺のトチノキ」他十本、岡田地区は「シャトーカミヤのイイギリ」他二十四本、奥野地区は「小坂町十三塚墓地のスタジイ」他二十二本で、合計五十九本・二十九樹種です。

この他、幹周・樹高測定法等を解説した資料編を加えて全体で百四十九頁です。

二・牛久市協働事業巨木リサーチ事業報告書

大きさはA四版、内容は写真頁や導入部に次いで次のような構成です。フェーズ一は 樹木調査・植生調査・ 街路樹調査・ 聞き取り調査の四項目、フェーズ二は、樹木の 診断・ 管理・ ガイドの三項目、フェーズ一・二共通では 撮影活動・ 見学研修活動他四項目からなります。

本文七十七頁と具体的データを示す二十二付属資料四十三頁他で百二十頁です。本書は活動経過をなぞってまとめられており、記録として貴重であると共に、今後この種の活動に取組む場合の有効な情報源となるに違いありません。

最後に、本事業の推進と本書の刊行にご支援いただいた牛久市、さとう法人うしく里山の会、牛久自然観察の森に対し、感謝申し上げます。さらに調査木の所有者・管理者および巨木編集委員・巨木リサーチ事業の皆様にお礼申しあげます。



牛久の巨樹の表紙



あやめ受託事業報告

佐藤 輝雄

稲荷川の草焼き

一月三十日(日)十二時半から稲荷川堤防の草焼きを行うとの広報が牛久市からあった。

稲荷川の草焼きは、枯れ草による火災防止・周囲の田んぼの病害虫駆除等を目的として堤防の「ヨシ」等の枯れ草を焼き払うもので、草焼きは私たちが除草したアヤマ園の枯れ草を処分するのに丁度良い。メンバー三人に声をかけ当日現地に集合した。三人とも草焼きには初めての参加であり要領がわからない。取り合えず堤防に積まれた枯れ草を燃えやすくするため熊手等でほぐし始める。

乾燥注意予報が続いているため、枯れ草はカラカラ状態と思いきやひっくり返してみると中は濡れている。これでは全部燃やすのは無理かもしれない。

また、堤防全体に延焼してしまわないよう周囲の整理も始めた。時間になるとあちこちから火の手が上がった。私たちがも枯れ草に燃える火をつけると、瞬く間に恐ろしい勢いで炎があがった。

一瞬怖くもなかった。炎の熱で身体が熱くなる。風向きによつて煙で呼吸が苦しくなる。

遠くから「土手の草(葎等の枯れ草)にも火をつけろよ!」と農家の方か



勢いよく燃える枯れ草 佐藤 11.1.30

ら声がかかった。私たちは「アヤマ園から下流の土手に火が広がってしまうのでは!」農家の人は慣れているのか「土手以外には火は行かないから大丈夫だ!」、あつという間に火をつけ始めた。火勢が恐ろしく炎も十五メートル位は上がった。三日月橋を通る人たちも「すごいね!」。

しかし、部分部分で燃えないところが多くあり、あらためて火をつけ直してもこれが燃えださない。風上から火を放たないと完全に燃やしてしまう

ことができず、野焼きも簡単なようでも要領があるものである。時々、町の消防団の方も見回りに来てくれた。十五時には草焼きも終わったが、かなり燃えずに残ってしまった。

私たちは草焼きをしながら子どもの頃を思い出して語り合った。「この草焼きが里山の風景だよね!」

当時、子どもたちだけで草焼きを始めると、不思議に風が吹き出し、風にあおられて見る間に炎が広がっていく。表面の枯れ草の燃え広がる早さにビックリして、着ていた「綿入れバンテン」やジャンパーをぬき、広がる炎をタタキ消した。ハントンやジャンパーが焼けて穴があき、家に帰ると親に怒られたものだ。

田んぼや畑でワラやもみ殻・落ち葉焼きの煙がたなびく風景も里山である。その火で焼く「焼き芋」美味しかった!。今は法律によつて「風俗慣習上又は宗教上の行事を行うために必要な廃棄物の焼却や、農業、林業又は漁業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却など以外禁止」とされていて勝手に草焼き等はできない。あの当時が懐かしく思う。

近くでは三月中旬に行われる「渡良瀬遊水地」の野焼き(草焼き)が有名である。



雑木林応援隊

原口 愛子

他地区ボランティアとの交流会(ツルかご教室)

一月二十三日(日)他地区のボランティアの皆さんと交流会を実施しました。参加人数は二十四名。

新しい年が明けて最初の寒波がやってきたこの日、美浦で活躍しているボランティアの人達を迎え、交流の一環としてツルかご教室を行いました。

昨年の秋に予定されていた「里山まつり」が季節外れの台風に見舞われ中止になった為に準備したツルかご教室がそのままになっており、「いい加減に使って欲しい」と悲鳴を上げていたところだったので、この企画はグッドタイミングでした。

ツルの種類は、アケビやフジ、クズ等を中心に、ツタ類はアオツツラフジ、ヘクソカヅラ、ピナンカヅラ等々応援隊が「ムジナの里」や雑木林を整備したときに集めて、不足分は各自が自宅から持参したものです。

これらの材料を自分が編んでみたい籠の大きさを形を想定してから、それに合ったツルを選びます。ツルは硬、軟、直、曲、細太など、いろいろあるのでもんならいいので生き生きとした顔で作りかかれました。



ツルかごづくりに熱中する交流会の皆さん

ほとんどの人がかご編みは初めての経験のため、ポイントの部分は何度かデモンストレーションを繰り返し、あれこれ頭をひねりながら悪戦苦闘。

最初は小さな可愛いいかご編みから始まり、その次に太目のツルを使って大きめなかごと、それぞれに個性的なすばらしい作品を完成させて行きました。中には自分の編んだ自慢のかごとの中に入って、ご機嫌で記念写真におさまる人もいて、笑顔の中で大満足の日でした。

かご編みと平行して、前から手掛けている竹垣作りの材料の竹を切りました。

今回参加希望の四人を加えた多人数の男性軍は、短時間で真竹を竹垣用に切りそろえるなど段取り良く作業が終わり、お昼には全員いろいろのなべの前に揃うことができました。

美浦で作っているという馬糞を利用してできたマッシュルームを、網で焼いて食べたときの熱々のおいしさはたとえようもありませんでした。

いつもの「雑木林亭」のこだわりの味にも舌つづみを打ちながら、お互いの情報を交換しあひ今後活動していく中で、参考になる話を聞くことができたことは、有意義なひとときだったと思います。



交流会参加の皆さんたち



今日で最後

四月三日に始まり一月二十二日までの十カ月にわたる、じゃがいも、サトイモ、サツマイモの植え付けそしてそれぞれの収穫祭。そばの植え付けからそば打ちまでと盛り



みんなで掘り起こした大きな一枚

親子農業体験講座

飯田 雅俊

沢山の行事であったが親子農業体験講座を無事終わることが出来ました。十四組の家族の中に昨年度の参加者が三組あり事業を進める協力をしていただいた。

六百平米程の畑での作業でした。いつも頭で考えている作業工程どおりにはすすまない、スタッフの少なさ、力量、事前の準備など重なり合った理由であるとは思うのだが、スタッフ以外の会員に手伝っていたいた時は大助かりでした。

夏に隣の畑とを比べると手が行き届いていないことがわかる。雑草とサツマイモが共生している。月に二回程の手入れでは当然かもしれないが、同時に私たちは、収穫物の量と質を目的に活動しているのではない。自分に言い聞かせている。

朝行くとき快晟（君、ちゃん略）が子供では最初に来て、おはようとあいさつをかわす。彩友香にあいさつするが返事は返ってこなかったがいつのころからか返してくれるようになった。将人と聖人、双子ではあるが行動は同じではない。

来年度から会員になって手伝ってくれるからうれしい。瑠奈、璃奈が友達の詩織と遊んでいるので相手にしてもらえない楓花。お父さん大好きな結帆。よく話しかけられた清史郎。二十三人の子供たちとたくさん遊んだ十カ月でもあった。

参加した親子にとって大切な時間が過ごせたと感じていただけたらうれしい。子供たちの成長にも良い時間であったと期待したいと話したら、親の自己満足ですと、過分な期待はしないほうがいいのかもしれない。昔から言われていることで、親の言うことは聞かないが、おこないは真似る、行為を伴った活動を続けていきたい。

今日で最後、お別れである、温かい芋煮とカレーうどん。秋に埋めておいたサトイモを掘り起こしに畑へ、連日の寒さで畑は一面霜柱、子供たちは氷だと言って掘り起こし記念写真。その後みんなで食事。食事中にお話しを伺ったら、楽しかった、来年度は参加したい人がいると聞くことができた。

来年度はどうするのかと考えていたら、協力しますと言っていただいたり、書類の作成を手伝いますと積極的に言っていた、来年度も続けることになった。限りはありますが多くの方の参加を待っています。



収穫祭後みんなで一枚



チーム街路樹20 受託事業報告

佐藤 輝雄

街路樹雑学

私もチーム街路樹20のメンバーの一人として登録しているが、多忙を理由に活動の機会が少なくメンバーの方々に迷惑をかけて申し訳ない気持ちだ。しかし、チームに所属している関係で、街路樹に対して知識は乏しいものの、いくらかの関心は持っているつもりで、最近資料などで得た知識や考え方を含めてまとめてみたい。

最近、生物多様性等自然に関して一般的に関心が高まっているためか、街路樹に係る情報(特に剪定方法について)も多く目にする。

まず、基本的な常識として「街路樹は何のために植えられるか?」調べてみた。効果としては美しい並木道や目隠し等による景観向上、騒音の低減や二酸化炭素の吸収・ヒートアイランド等の緩和など生活環境の保全、直射日光や強風を抑えたり、雨を遮り歩行者を助ける等の緑陰形成、眩しさを抑える、ガードレールの役目となり歩行者を守る、歩道への車の進入を防ぐなどの交通安全効果、火災の延焼を防ぐ等の防災効果、新緑・花・紅葉等季節感で生活に安らぎを与える・・・。

逆に街路樹を植えることによる弊害もある。倒木・枝等の落下物による危険などの弊害、落ち葉や木の陰での日照などの弊害、ムクドリや毛虫等動物による弊害、薬剤散布とうの弊害・・・。(ウィキペディアより)これらの街路樹による効果や弊害を知ってあらためて街路樹を考えるとちよつと違った目で見ることができそうだ。

最近話題になっている街路樹の剪定に関する問題だが、牛久市においても駅東口の通称「ケヤキ通り」のケヤキの剪定に対して、意見が分かれ議論を呼ぶことがある。

ケヤキ通りの話題をするときは、仙台の青葉通り

のケヤキ並木や日立のケヤキ並木などの素晴らしい景観が比較の対象に挙げられる。また、イチヨウ並木は神宮外苑のイチヨウ並木と比較されることが多い。ちよつと考えてみたいのは対象とされる街路樹は全国的にも有名なスポットになっていて構想を抱くのは良いが、比較するにはちよつと可哀そうな気がする。仙台・神宮外苑・日立でも、前記したように街路樹は弊害には弱い立場にあり、その場所から離れると他と同じように管理剪定されている街路樹が大半ではないだろうか。

同じ木でもちよつと由緒ある木は大事にされ、その木を守るために歩道が曲げられたりするが、ただの木の邪魔な枝は切られてしまつこともある。

私がかからないのは公園の立木の管理に対する考え方である。街路樹は電線や日陰・落ち葉などでの障害が考えられるが、公園の立木は自然のまま伸ばすことができないのだろうか。無残に剪定された公園のケヤキ。剪定された枝はブツブツとこぶができていかにも醜い。桜の木は剪定されることがない。花を見るために当然だと思うがケヤキも見事な紅葉を見せる。落ち葉による弊害は同じと思うが、いろいろと意見はあるだろうが、前記したように街路樹は弊害に弱い立場にあり、これから時間はかかるかもしれないが、牛久市の街路樹を見に行きたいと言われるような場所を少しでも多く育て上げられたらと思いつつ私たちは活動を続ける。



近くの同じ公園で対照的なケヤキ

一般投稿

横山 さえ子

「今年のコブシは、たくさん咲くよ」

私の出身は静岡の田舎、春の花は菜の花に桜だった。ここ牛久に引っ越してきて、春先の山に一足早く白い花が咲くのを、何の花だろうと思っていた。田舎では見たことがない。観察会で、

名前はコブシ、田んぼをそろそろ耕作する時期だと知らせてくれるので、「田打ち花」とも言うて教えてもらった。春を告げる花で、純白で美しい。好きな花になった。まだ葉をつけていない木々のあいだに咲いている。遠山や稲荷川沿いなどに出かけて、楽しんでるが、ここ二三年は花が少なかった。今年はずっとこの先に枝をつぼみをもっている。昨

夏の猛暑のような気象に異常があると、「たいへんだ、子孫を残さなければ・・・」とたくさん花をつけるんだと、誰かが言っていた。真偽のほどはわからないが、今年のコブシはあふれるほどの花を咲かすにちがいない。

「みどり野は暖かい?」

十二月十七日、みどり野の後藤サイクルさんの裏手の道を通りかかると、かぐわしい香りがただよってきた。見回すとロウバイが名前の通りのうす黄色い口ウ細工のような花をいっぱい開いていた。しばらく香りを楽しんだ。一月も十日あたり、神谷六丁目ロウバイの木をみかけたが、花はまだ十分開いていない。そつえば沈丁香でもこんなことがあったのを思い出した。みどり野はまわりより少し低い。带状に雑木林に囲まれている。北風の強い冬の日に、全く風のあたらない場所にいきあったことがある。測ったわけではないが、二、三度は、気温が高いのではないだろうか。



牛久自然観察の森だより

渡邊 浩美

合同作業での伐木

今回は、ナラ枯れ予防のため、コジユケイの林にある樹齢二十年以上と思われる太いコナラの伐木が行われました。(ナラ枯れは年数の経った樹木に発生しやすいため)

そして、この伐木作業は植生管理ボランティアだけでなく、NPO法人「うしく里山の会」の雑木林応援隊との合同作業となりました。

まず、雑木林応援隊で棟梁や親方と呼ばれるベテランのIさんが責任者となって、作業前の点呼と作業内容の説明を行いました。

いよいよ作業に取り掛かります。再度作業の段取りを確認して、切る木にロープをかけます。木をよく見て、倒す方向を決め、倒す方向に受け口を作ります。いよいよチェーンソーで切り始め大木は倒れました。

残った大木の切断面には木が腐らないように墨を塗りました。さて、ここからが大変です。ノコギリやチェーンソーで、倒した木を

キノコ用、薪ストーブ用と切り分けていきます。そして、運び出して作業は終了となりました。

植生管理ボランティアとして雑木林応援隊の皆さん、お疲れさまでした。



作業開始前の説明を行う親方 I さん



募集のお知らせ

受託事業「牛久アヤマ園」

管理メンバーの募集

うしく里山の会の受託事業として、牛久市から「牛久観光アヤマ園」の管理業務を受託しています。

内容としては、市のワインビレッジ構想「水と緑のネットワーク」

の起点となる牛久沼に面した貴重な水辺空間の自然生態系の復活と、荒廃したアヤマ園を再生を目的としています。

作業は一年を通じて、花菖蒲の株分け・除草等を行っていきます。現在のメンバーは約十五人でチームワーク良く楽しい時間を過ごしています。

作業日は

毎週 月・木曜日 七時五十分～十二時

(七～九月は七時～十一時)

(作業時間に応じて謝金がございます)

詳細は管理責任者・

坂 又は牛久自然観

察の森までお問い合わせ下さい。

029 874 6600



運営委員会からのお知らせ

坂 弘毅

里山セミナーのお知らせ

「江戸しぐさ」は、江戸商人のリーダーたちが築き上げた、上に立つ者の行動哲学でした。よき商人として、いかに生きるべきかという商人道で、人間関係を円滑にするための知恵でもありました。

希薄な現代社会において、江戸しぐさを現代人が身につけていければ人間関係はすこぶる良好であると思います。第一回では江戸しぐさの「基礎編」でしたが、(続)江戸しぐさは、里山という自然の中で生きぬいてきた人々の生活の知恵などを江戸しぐさと云う切り口でお話しをしていただきます。

講師 「江戸しぐさ」江戸文化研究会主宰

外岡 仁氏(とのおか まさし)

日時 三月十二日(土) 十三時～十五時

場所 牛久自然観察の森 ネイチャーセンター

電話 029 874 6600

南部の自然を守る会

阿部 幸浩

遠山クリーンアップ作戦参加者募集

美しい遠山の里山を守るため、地元成井集落のみなさんと一緒にゴミ拾い(一時間程度)を行います。ゴミ拾いの後には水タールが生息する休耕田の草刈りなども行います。

日時：三月六日(日)八時～十二時

集合：成井公会堂(牛久市城中町)八時

その他：おいしいお弁当を用意しますのでお楽しみに。



牛久自然観察の森だより
チーフコーディネーター 齊藤 孝

森のホスピタリティ

先月号に続き、観察の森業務に求められる「ホスピタリティ」についてご説明します。

日本語では「おもてなしの心」「心遣い」「誠実さ」などと表現されるこの「ホスピタリティ」、元々はラテン語の「hospicis」(客人等の保護)という言葉が語源になっています。

観察の森は牛久市の施設ですので、当然良質な行政サービス提供が求められますが、私達はこの「サービス」から数歩先を進んで「ホスピタリティ」を提供したいと考えています。というのも、「サービス」という発想だけでは、「サービスを受ける側と提供する側」という関係が個別の案件に沿って位置付けられているまでで、ともすると「決められたことを粛々と繰り返すだけ」の通り一辺倒のマニュアル対応になってしまう場合があるからです。

市民や来園者の思いに関心を持ち、そこに心を寄り添えて能動的に対応する、そういった本会独自の「ホスピタリティ」を有した「サービス」があったからこそ、第一期指定管理者期間での来園者倍増につながったのではないかと思います。

そして、第二期が始まる四月以降は、この特性を更に良い方向に伸ばすべく、多様な取り組みを展開してまいります。
(四月号に続く)



結束町みどりの保全区
エコアップ作戦 齊藤 孝

うしく里山の会全体事業

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の牛

久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ



作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行なっています。活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしております。

三月の活動日時

四日(金) 午前九時～十一時半

二十日(日) 午後一時～三時半

集合 牛久自然観察の森ネイチャーセンター

一階倉庫前

(予約不要/荒天時は中止)

ホームページに情報掲載)

持ち物 長靴、軍手(長袖、長ズボンで)

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ。

問い合わせ先 029-874-6600 担当:石神

今月の古木・希少木
No.47
ヒノキ

に見られる。

高さ三〇m、径一・五m以上になるものもある。

葉は長さ一～三mmの小さな葉が鱗のように重なり合って十字対生する。写真のように葉裏の白い気孔帯がY字形になるのが特徴である。枝は細く、水平に広がり、密に茂る。

雌雄異花で雄花は長さ二～三mmの楕円形で黄赤色。雌花は径三～五mmの球形。それぞれ枝先に一個ずつつく。花期は三～四月。果期は十～十一月で球果は径一cm前後である。秋に緑色から赤褐色に熟すと割れて翼のついた種子を飛ばす。樹皮は赤褐色で縦に長く裂ける。屋根の檜皮葺の材料となる。

和名は火の木の意、昔火を起こすのに使ったことから。材は加工しやすく芳香があつて美しく、かつ狂いが出にくく耐朽性も高く建築材として最良。

古くから城や神社仏閣には必ずヒノキ材が選ばれた。船舶材や彫刻材、器具材としても利用される。

(平塚芳雄)



ヒノキの葉裏と果実 11.1.23

2011年3月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
		1 森の畑 13:00畑	2	3 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	4 エコップ作戦 9:00NC	5
6 南部の自然を守る会 8:00成井公会堂 巨木リサーチ2(特) 9:00まふんテアC	7 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	8 森の畑 13:00畑	9	10 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	11	12 里山自然観察隊 (モニタリング地調査) 9:00得月院P 公開里山セミナー 13:00NC (会報等原稿〆切)
13 雑木林応援隊 9:00炭屋	14 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	15 森の畑 13:00畑 チーム'街路樹20(受) 8:30市まふんテアC	16	17 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	18	19 親子農業体験講座 9:00畑 雑木林応援隊 9:00炭屋
20 雑木林応援隊 9:00炭屋 運営委員会9:00NC エコップ作戦 13:00NC	21 (春分の日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P 雑木林応援隊 9:00炭屋	22 (休園日) (会報原稿確認)	23 (休園日)	24 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P 森の畑 13:00畑	25	26 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所玄関前 チーム'街路樹20(受) 13:00市まふんテアC (交流会)
27 雑木林応援隊 9:00炭屋 会報発送 13:00NC	28 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	29 森の畑 13:00畑	30	31		

活動日は天候等により変更となる場合がありますので、最新情報はホームページ(トップページのお知らせ欄)をご確認ください。

【凡例】

森: 牛久自然観察の森
NC: 牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P: 牛久自然観察の森駐車場
炭小屋: 牛久自然観察の森駐車場の炭小屋
畑: 牛久自然観察の森駐車場の畑
コジユケイ: 牛久自然観察の森コジユケイの林
観察舎畑: 牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ: 結東町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所: 牛久市役所本庁舎
ボランティアC: 牛久市ボランティア市民活動センター
中央生涯C: 牛久市中央生涯学習センター

アヤマ園: 三日月橋観光アヤマ園

(休園日): 牛久自然観察の森休園日
(受) 受託事業
(特) 特別事業



編集後記

早くも三月、春を呼ぶ季節になりました。

(花粉症の私には憂鬱な時期ですが・・・)

三月は弥生(やよい)と呼びます。弥生の由来は、草木がいよいよ生い茂る月「木草弥や生い月(きくさやおひづき)」が詰まって「やよひ」となったといわれています。

以前この欄に書いたことがありました。日本の五節句は、人日(じんじつ)正月七日「七草がゆ」・上巳(じょうし)三月三日「桃の節句」・端午(たんど)五月五日「端午の節句」・七夕(たなばた)七月七日「七夕祭り」・重陽(ちようよう)九月九日「菊の節句」の行事がありますが、そのうちの一つ「桃の節句」は今月(三月)の行事です。

最近はこちらで江戸時代等の古い雑やつるし雑が飾られ、町おこしの一つにもなっています。三月三日の節句は古く平安時代から始まって、飾り雑としては室町時代から定着したようです。

私たち中高年の人たちが集まると懐かしく語りあう一つに「昔はよかったね!」・「ベーゴマ・たこあげ・野山を自由に駆けまわり・・・懐かしいね!よくキノコ採りをしたもんだ。これが里山の思い出だね」。

今の子どもたちが中高年になった時、どんな思い出話になるのでしょうか。私もテレビ等で里山の素晴らしさをテーマにした番組を良くみます。実際に体験した環境があったから感激できると思います。が、映像でしか見られない今の子どもたちは、将来どう感じながら次世代に語り継ぐのですかね。

一句、「里山をどこの力士かと問う子ども」。

こんなことを考えてみると身近にある里山をいつまでも守って今の子どもたちと大いに遊びたいと思うこの頃です。今月の親子農業体験講座の飯田さんの記事をほほえましく編集させて頂きました。

佐藤輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2012年4月号の発送は3月27日(日)午後1時からです。お手伝いいただける方はネーチャーセンターまでお越しください。(尚、発送日・時間につきましては都合により変更する場合がありますので事前に御確認いただければと思います)よろしく願います。